Ⅱ こども・若者をめぐる現状と課題について

～子ども・若者の意識と行動に関する調査から～



子ども・若者の意識と行動に関する調査　概要①

内　容　　県内の子ども・若者の意識調査を実施し、行動の実態と
生活意識の特質を的確に把握し、その結果を基に
青少年施策の充実を図るための資料とする。

対　象　　山梨県全域の12歳～30歳の男女

標本数　　3,000人
（12歳～17歳 1,000人　18歳～30歳 2,000人）

調査期間　令和5年6月16日～8月6日

回収結果　**回収数　1,831　（回収率　61.0%）**



子ども・若者の意識と行動に関する調査　概要②

調査内容

①本人及び家庭に関する事項
②学校に関する事項
③将来像に関する事項
④家族・友人関係に関する事項
⑤ひきこもりに関する事項
⑥外出傾向に関する事項
⑦インターネットの利用実態に関する事項
⑧青少年非行に関する事項
⑨郷土等に関する事項
⑩社会参加活動に関する事項
⑪多文化共生に関する事項
⑫仕事に関する事項
⑬子どもの貧困に関する事項
⑭県政に関する事項
⑮ヤングケアラーに関する事項

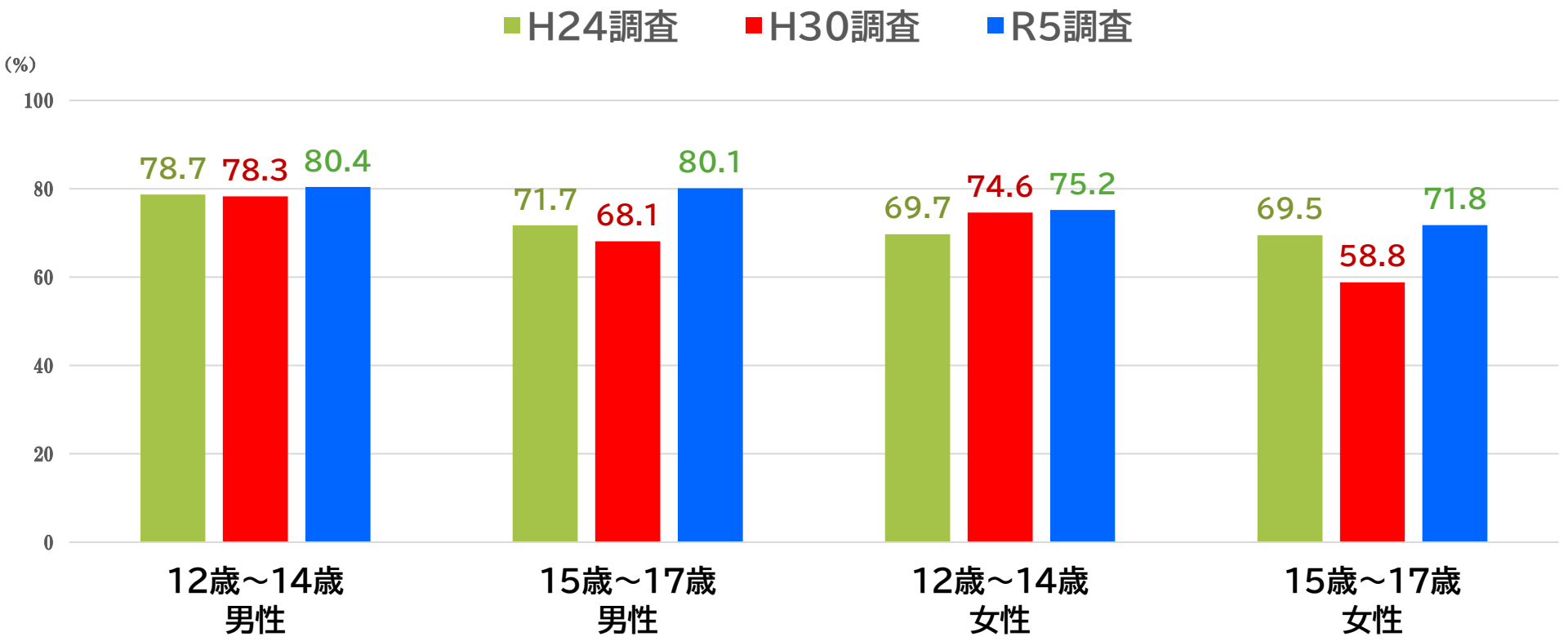
～昭和58年から、概ね5年ごとに継続実施～

１．学校に関する事項
２．居場所・自己肯定感に関する事項
３．インターネットの利用実態に関する事項



Ⅰ．学校に関する事項

先生は、あなたのことをわかってくれているか



◇「理解意向」が高い状態

◇ 高校生の男女の理解意向の割合が上昇傾向。

Ⅰ．学校に関する事項

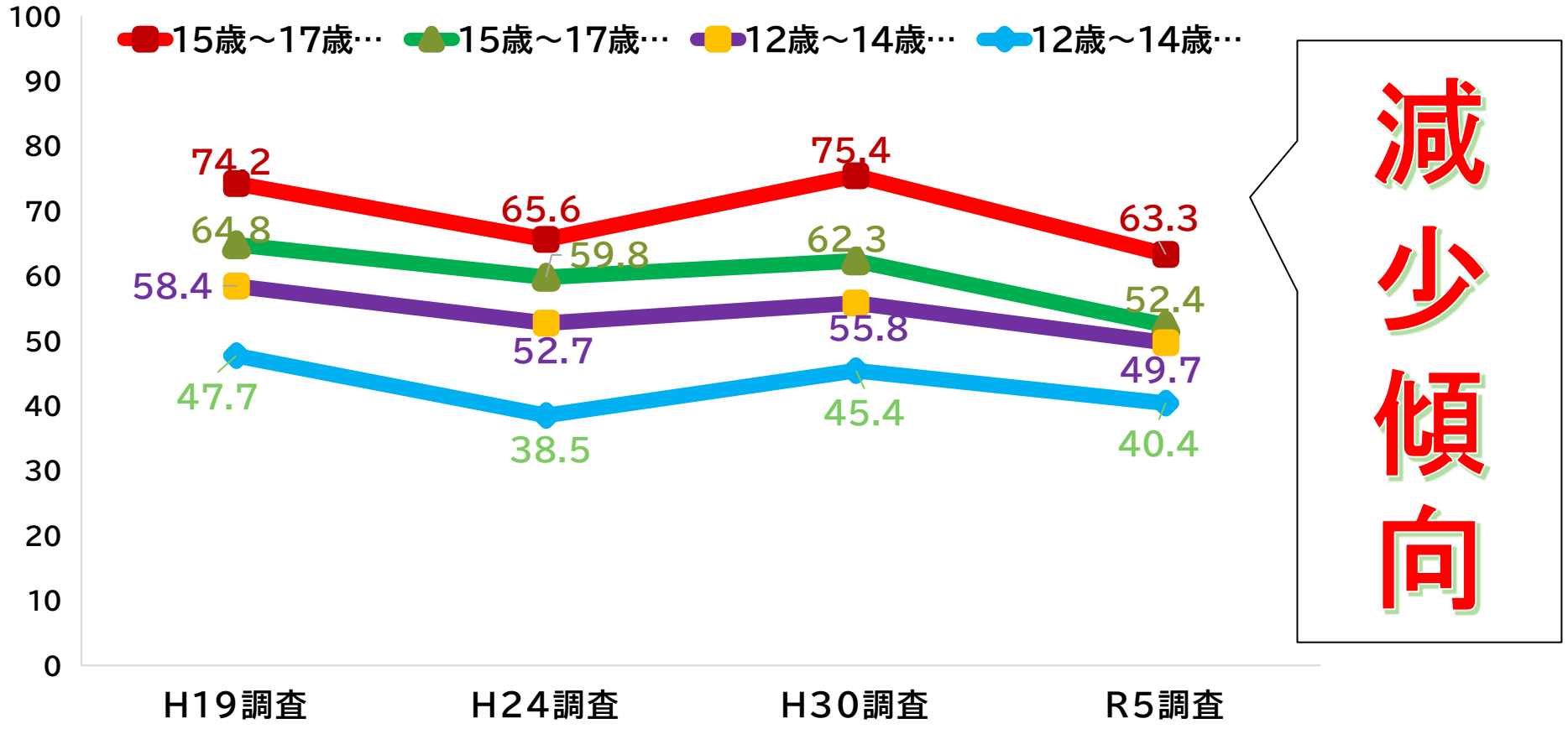
学校に行きたくないと思ったことがあるか（SA）

	いつも思っている	思ったことがある	思ったことがない	不登校意向
12歳～14歳男性	6.4	34.0	59.6	40.4
15歳～17歳男性	7.8	44.6	47.6	52.4
12歳～14歳女性	9.1	40.6	50.4	49.7
15歳～17歳女性	15.7	47.6	36.7	63.3

中高生の約半数が「学校に行きたくない」と思ったことがある。
（高校生の女子では6割）

Ⅰ．学校に関する事項

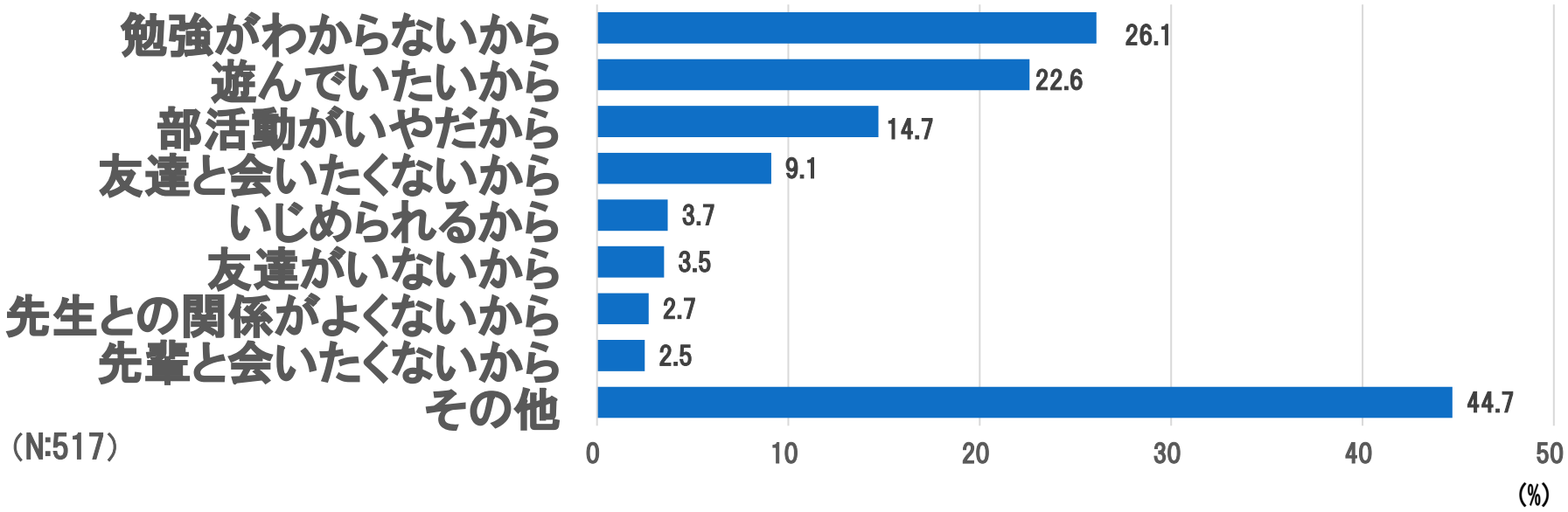
学校に行きたくないと思ったことがあるか



減少傾向

Ⅰ．学校に関する事項

学校に行きたくない理由は（MA）



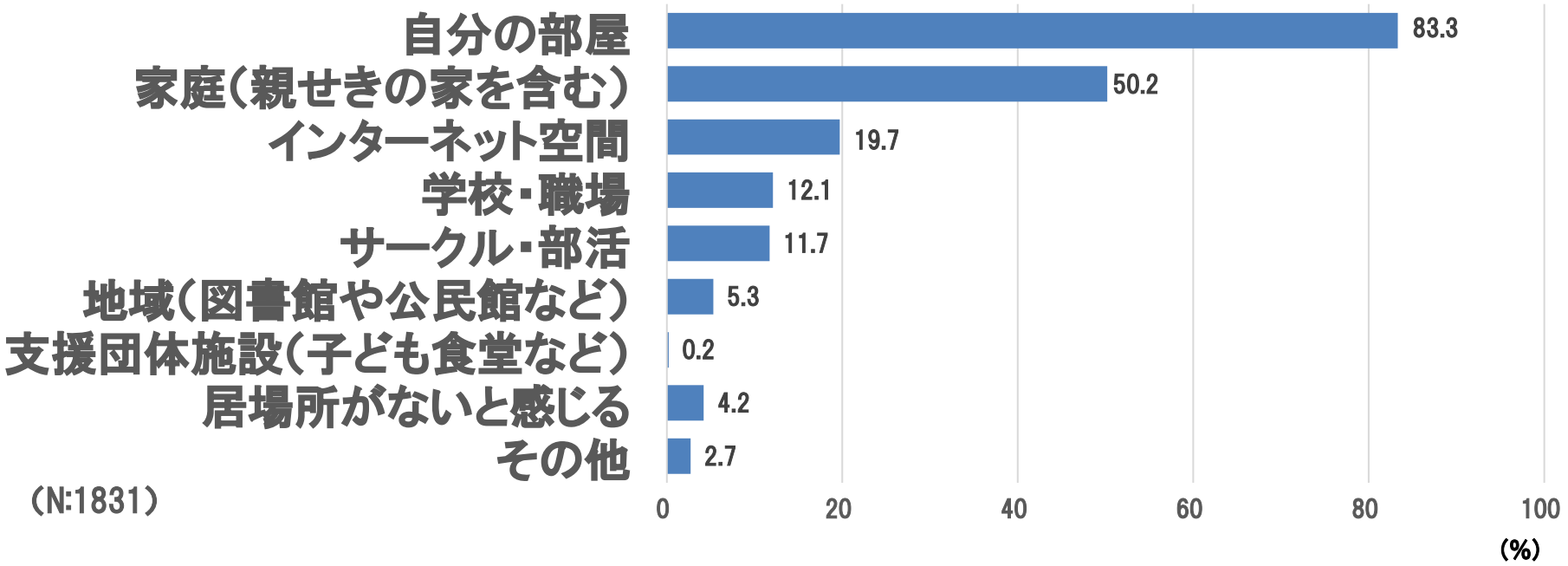
1位　勉強がわからないから

2位　遊んでいたいから

3位　部活動がいやだから

2．居場所・自己肯定感に関する項目

リラックスして落ち着いて過ごせる場所は（SA）



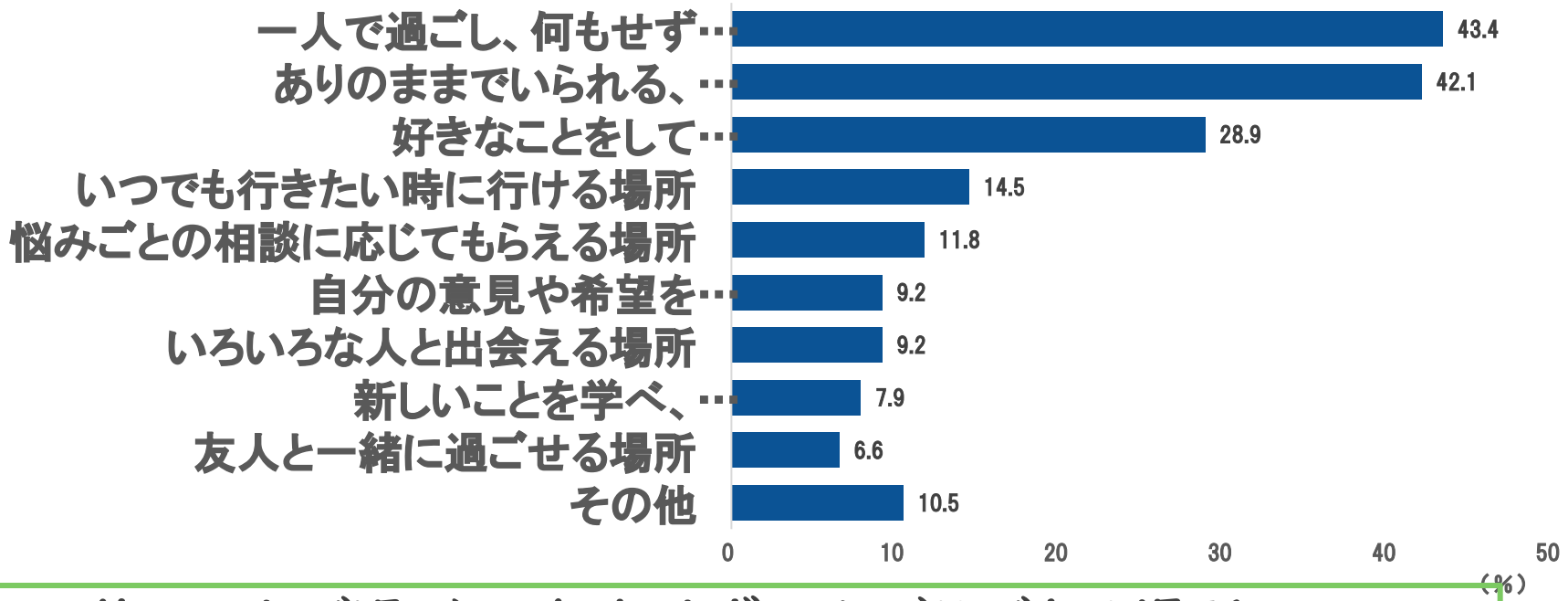
1位　自分の部屋

2位　家庭（親せきの家を含む）

3位　インターネット空間

２．居場所・自己肯定感に関する項目

居場所がない人（4.2％）は、そのような居場所がほしいか（MA）



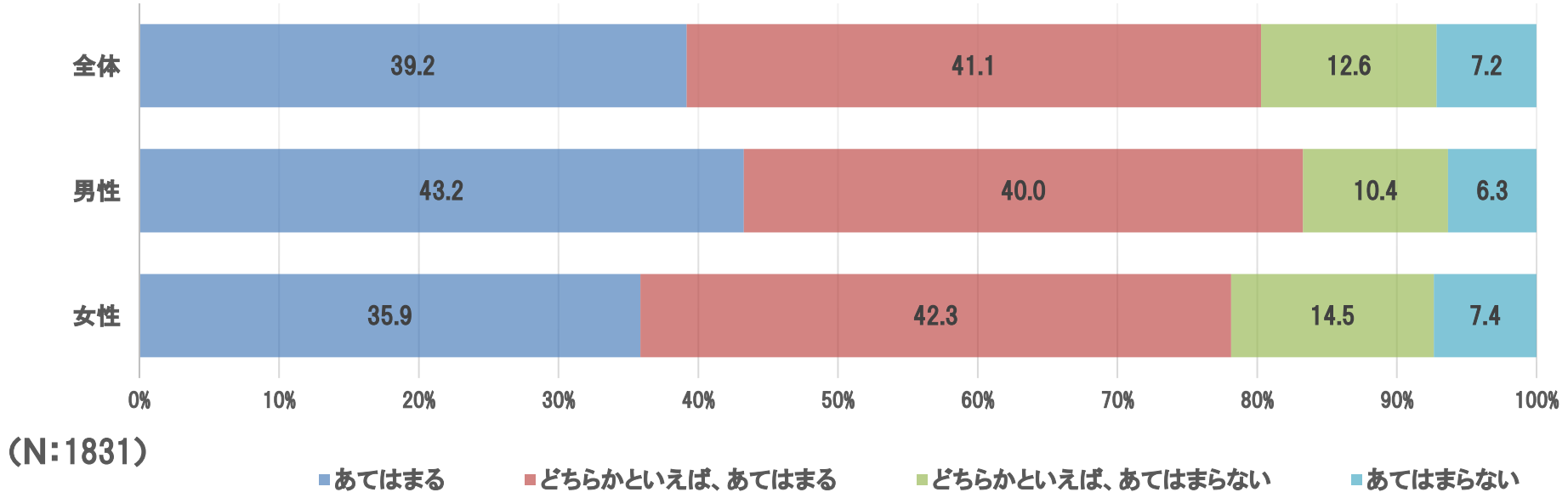
１位　一人で過ごし、何もせずのんびりできる場所

２位　ありのままでいられる、自分を否定されない場所

３位　好きなことをして、自由に過ごせる場所

2．居場所・自己肯定感に関する項目

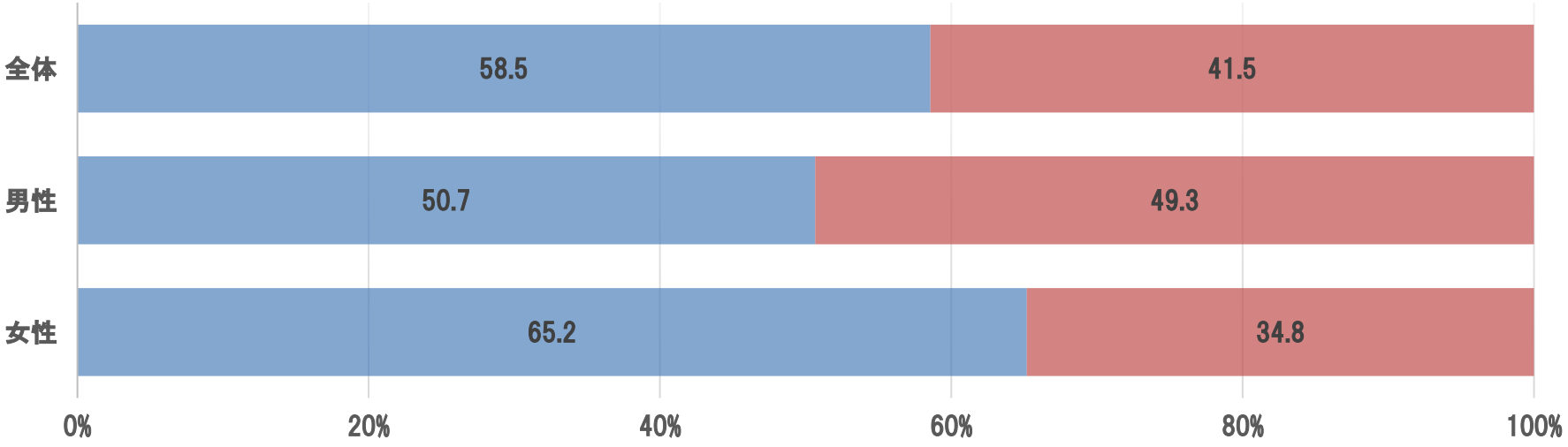
自分には、よいところがあると思うか



「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」が80%

2．居場所・自己肯定感に関する項目

今、悩みごとがあるか（SA）

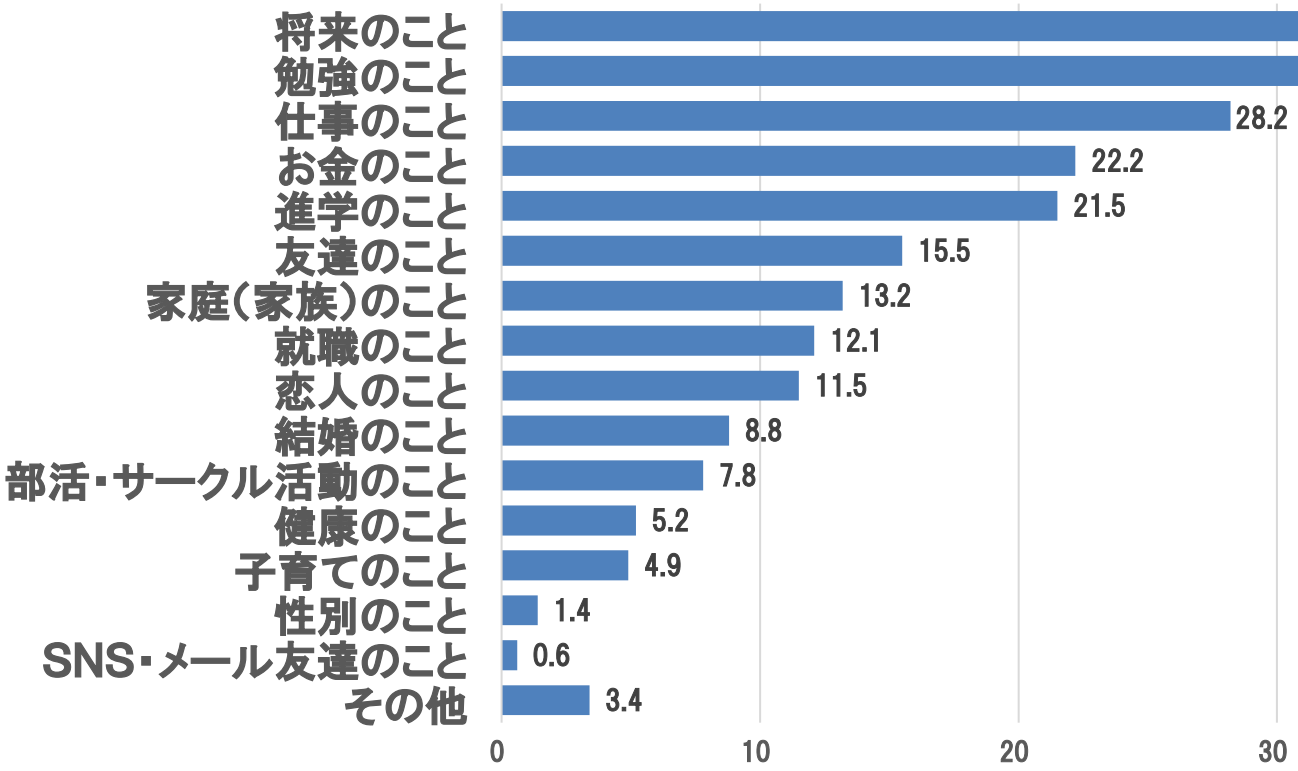


（N:1,831）

60%が悩みを抱えている

２．居場所・自己肯定感に関する項目

悩んでいることは何か（MA）



1位　将来のこと

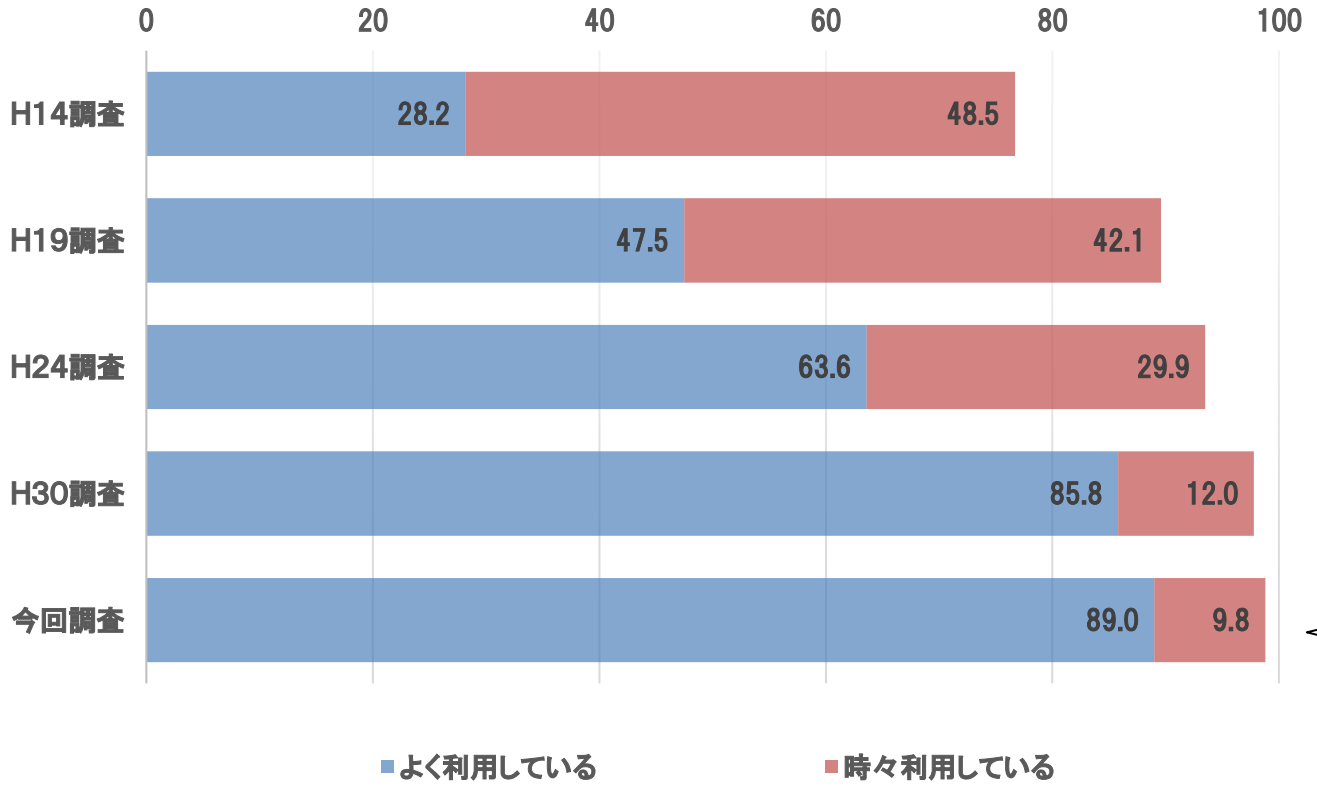
2位　勉強のこと

3位　仕事のこと

4位　お金のこと

3．インターネット利用実態に関する事項

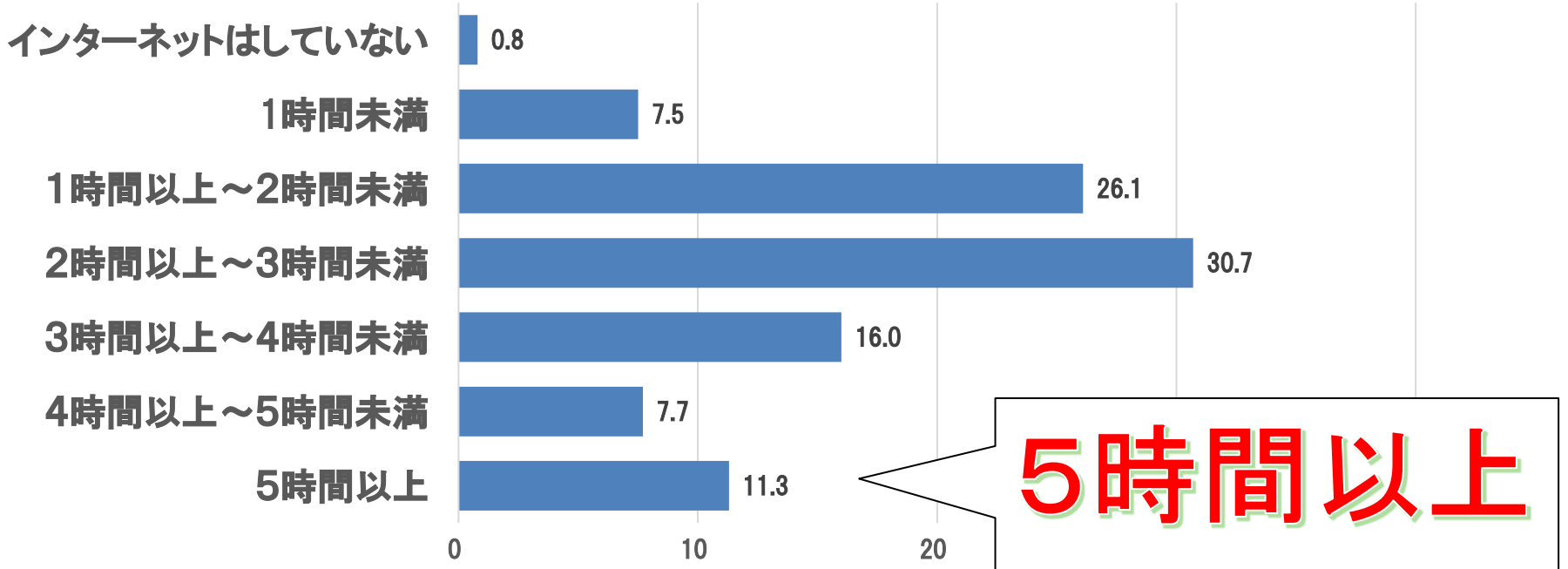
インターネットを利用しているか（SA）



98.8%

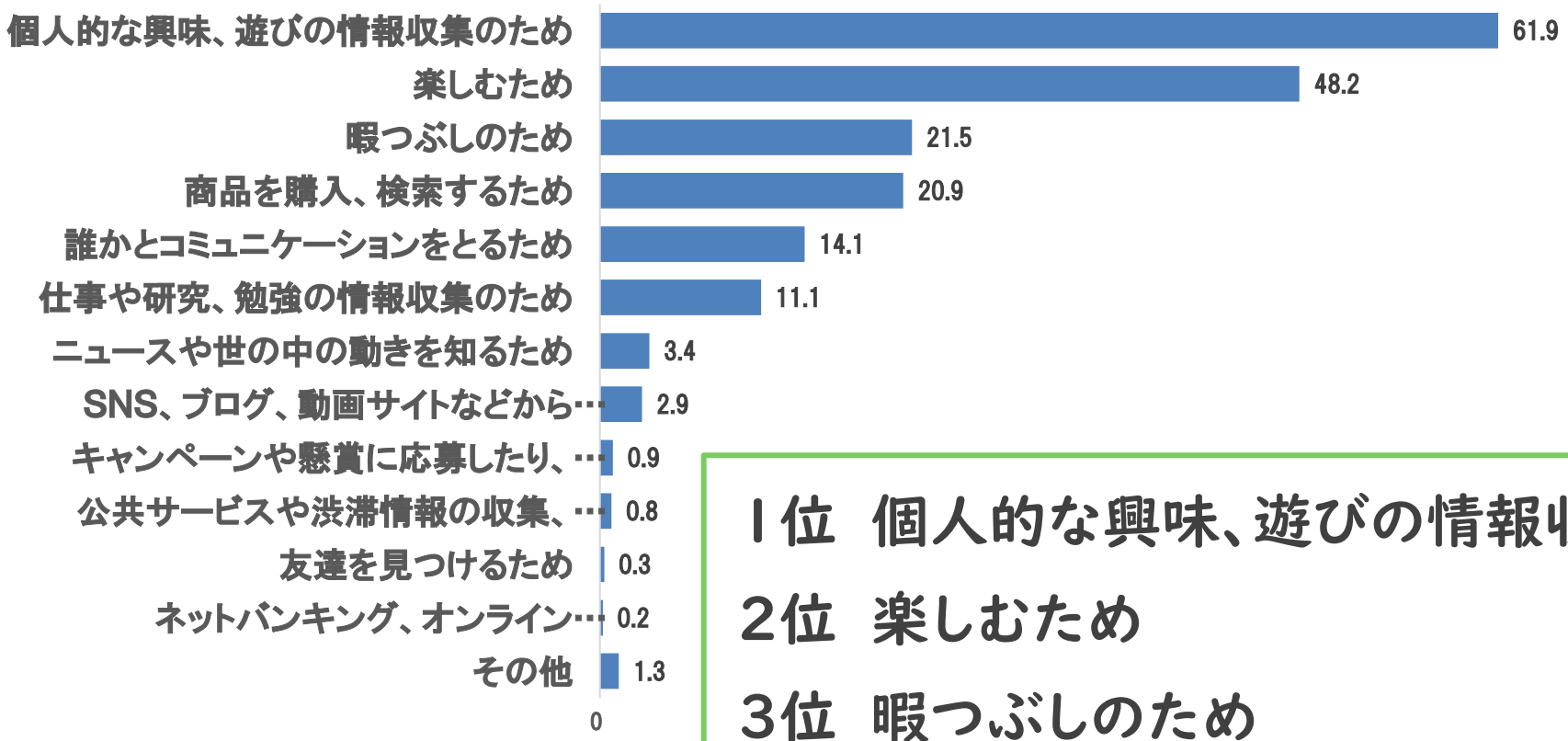
３．インターネット利用実態に関する事項

学校や仕事がある日に、１日どのくらいインターネットにアクサスするか（SA）



3．インターネット利用実態に関する事項

インターネットを利用するおもな目的な何か（MA）



1位　個人的な興味、遊びの情報収集

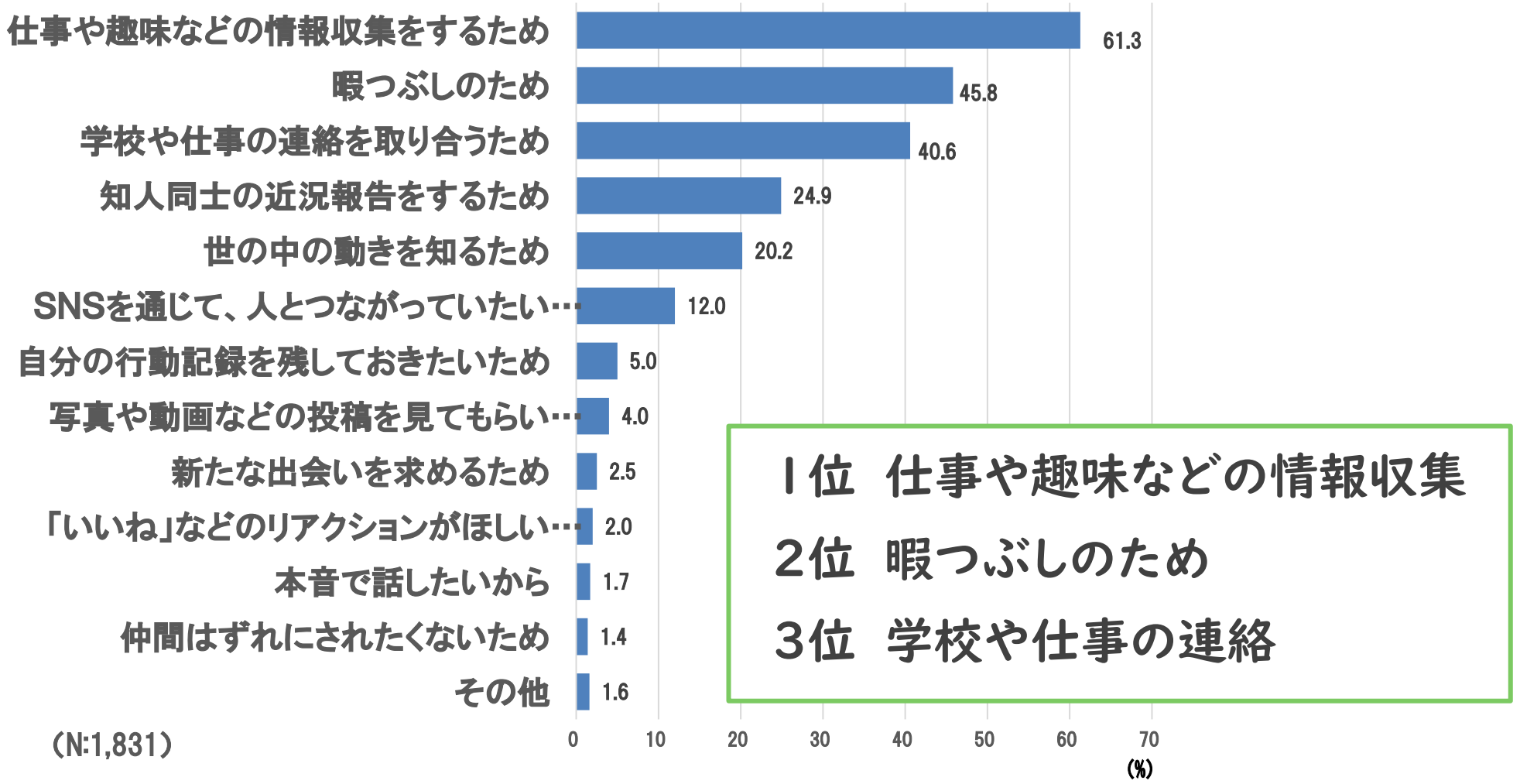
2位　楽しむため

3位　暇つぶしのため

4位　商品を購入、検索するため

３．インターネット利用実態に関する事項

SNSを利用するおもな目的な何か（MA）



（N:1,831）

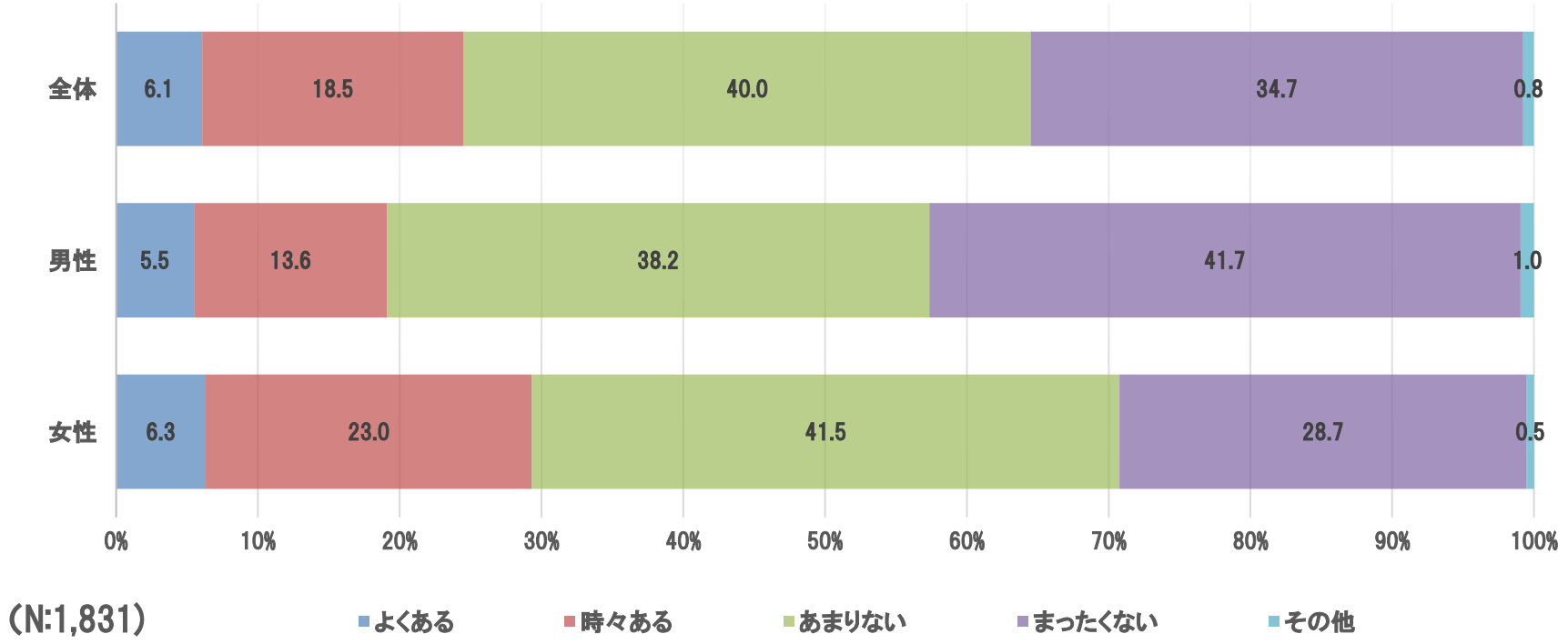
１位　仕事や趣味などの情報収集

２位　暇つぶしのため

３位　学校や仕事の連絡

3．インターネット利用実態に関する事項

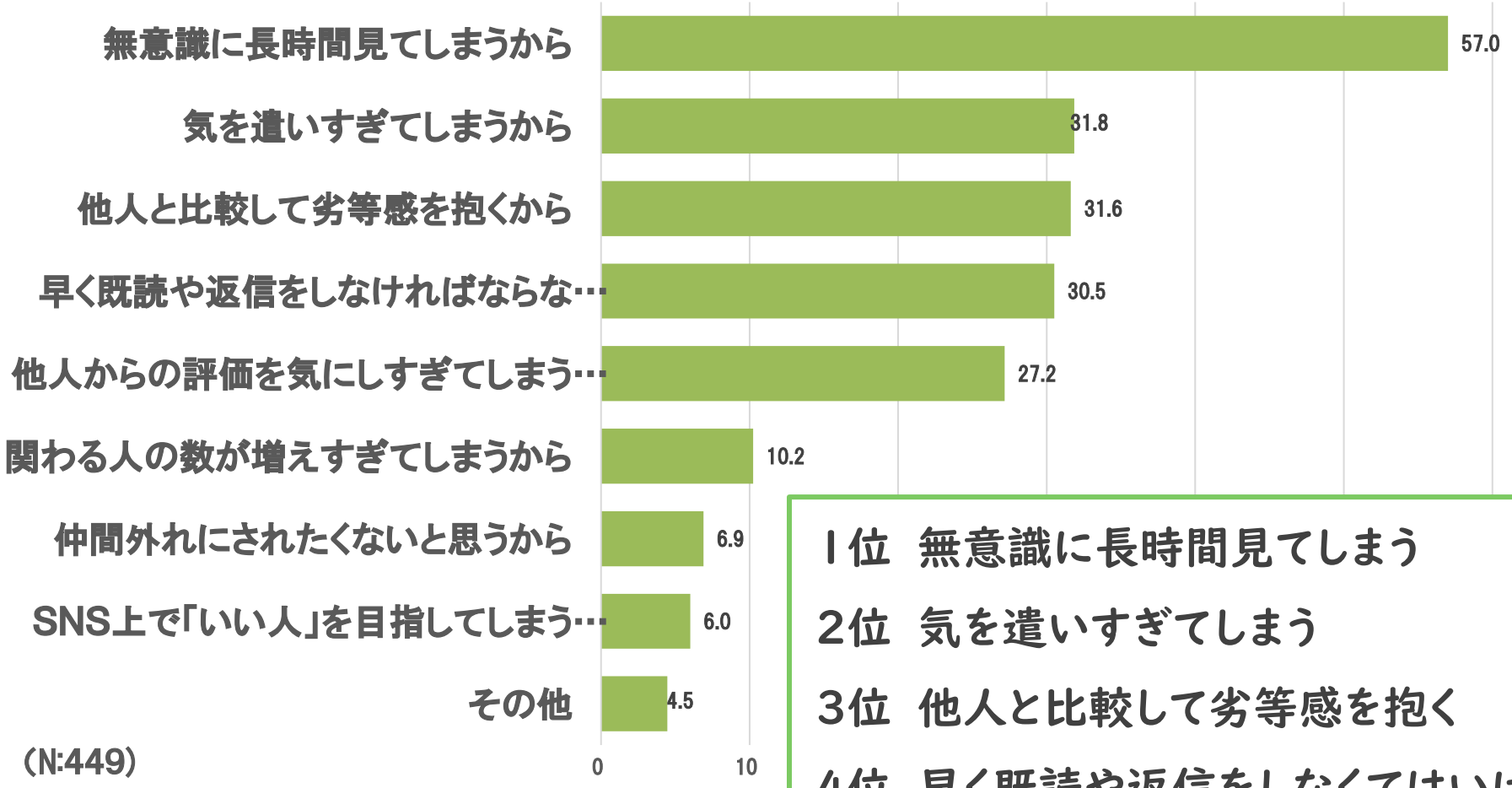
SNS疲れを感じることがあるか（SA）



24.6%が疲れを自覚している

3．インターネット利用実態に関する事項

SNS疲れを感じる原因は何か（MA）



1位　無意識に長時間見てしまう

2位　気を遣いすぎてしまう

3位　他人と比較して劣等感を抱く

4位　早く既読や返信をしなくてはいけない